



週報

2017~2018年度 RI会長 イアン H. S ライズリー
RIのテーマ 『変化をもたらす』
地区のテーマ 『RI 戦略計画を皆で一緒に実行しよう!!』 がけー 細井保雄

国際ロータリー
第2570地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕 狭山東武サロン〒350-1305 狭山市入間川 3-6-14 TEL 04-2954-2511
〔事務所〕 〒350-1305 狭山市入間川 1-24-48 TEL 04-2952-2277 FAX 04-2952-2366
<http://www.schuohrc.org> E-mail: schuohrc@pl.s-cat.ne.jp
会長 益子伸明 会長I/O 清水幸彦 副会長 松浦法子 幹事 浜野貴子

第3グループ内の例会日] 新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(火)、所沢西(火)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第1159回(11月28日) 例会の記録

点鐘 益子伸明会長
合唱 我らの生業
第2副SAA 松浦会員 宮岡会員

※出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
32名	28名	84.62 %	98.46 %

パスト会長の時間

若松泰誼パスト会長



『挫折力 復活力』

1990年~2000年初めの頃、日本の企業の中で、雪印や三菱自動車、カネボウ、すき家、その他いろいろと不祥事が発生しました。みなさんもご記憶の方が多いかと思います。その失敗を起こした企業のその後、挫折をバネに「弱さ」を「強さ」に変えて「復活」をしている企業があります。そこには企業経営にとって役割がいっぱいある訳ですが、今日はある企業がどうして蘇ったのか、「復活の歴史」の話をしします。

「あの夏は忘れない」…毎年6月、それは雪印メガミルクにとって喪に服するような一ヶ月となっています。17年前に起きた「あの事件」を振り返り、考え直す取り組みとなっているからです。



当時の雪印乳業(株)大阪工場

2000年6月25日、近畿地方で雪印乳製品による集団食中毒事件が起きました。だが数日後の記者会見に立った、当時社長の石川哲郎は実態を把握しておらず、記者の質問にしばし沈黙し、間違った説明を繰り返しました。決定的だったのは7月4日の会見で、途中で質問を打ち切った石川は、エレベーターまで追いかけてきた記者団に「私は寝てないんだ」と言い放ってしまいました。その映像が全国に流れ、消費者からの猛反発を買う事になります。そして雪印の全商品が店頭から撤去される事態に発展してしまったのです。



「私は寝てないんだ!!」



なぜ事件は起きてしまったのか？ 現社長の西尾哲治は考えました。「事件を社内で風化させてしまった」…。実は雪印は62年前にも事件を起こしていました。それは墨田区の小学校などで脱脂粉乳による食中毒を起こしていたのです。「そんなハズはない」と一気飲みして、トイレに駆け込む失態も演じてしまいました。この時の経営TOPは「全社員に告ぐ」と題した訓示を配りました。「品質によって失った名誉は、品質をもって回復する以外に道はない」…とだが、これも1980年代までは新入社員に配っていましたが、いつの間にか訓示は消え、語られることも無くなっていました。



だからだろうと思いますが、今度の事件で反省した雪印では、6月16日を「誓う日」と定め、全部門で食中毒について語り合う事になりました。

社長の西尾は「3度事件を起こしてはならない」と決意を語っています。すでに社員の57%は事件後に入社しています。雪印さんでは今、毎年6月に全社一斉に品質保証テキストを配り、「理解度テスト」を実施しており、全ての社員が全ページを開くことになりました。



過去に乳製品は学校給食や生活の必需品のため、さしたる営業努力や商品開発の必要性もなく、儲かり続けるうちに「生産者のおごり」が組織をむしばんでしまったんですね。

だがあの夏の出来事は、多くの社員に企業の在り方を考えさせることになりました。

社長の西尾は、子供を育てる母親から一通の手紙を受け取りました。

(内容)

「私は母ひとりで育てられました。母乳が出ない母は土木作業で苦勞をしながら、一番高い粉ミルクを買って育ててくれたのです。それが雪印と言うブランドでした。

私は子育てに雪印を与えていいのか？でも違う商品を買えば、母を否定することになる。どうか母の人生を裏切らないでください。」

西尾社長は「ブランドとは企業だけのものでは無かった」と痛感したんだそうです。

その後ヨーグルトの「恵 megumi ガゼリ菌SP株」となる商品等を出して、ヒットもして、食中毒事件とその翌年の牛肉偽装事件で分離せざるを得なかった。牛乳事業も2011年再統合しました。



消費者の声を最大限に活かす仕組みを構築するなど、地道な活動の連続によって、売上が順調に回復し、雪印は再びブランドの信頼を取り戻そうとしています。

私の会社でも常に品質と向き合って失敗をしない様に頑張っていますが、最近では「品質日本」が凍りつく様な大企業の不祥事が発生しています。

企業規模の大小とか関係なく失敗したら、そのツケは必ず廻って来るという事を今回は改めて勉強させていただきました。

以上で私からの話は終わります。

本日はありがとうございました。

幹事報告

浜野幹事

- 『第6回来日・派遣学セイオリエンテーション』開催のご案内
- 『狭山市2RC新春合同例会開催のご案内』
平成30年1月22日(月) 18:30～新狭山ホテル2F
- 『青少年を育てる狭山市民会議 第5回理事会』
『狭山市綱引大会第5回実行委員会』開催のご案内
- 11月14日(火)家族同伴日帰り親睦旅行収支報告
- 個人の預り金収支明細書の内容をご確認の上、不明な点は事務局までお問合せください。
- 受贈会報 新狭山RC 所沢西RC
- 回 覧 かものはしプロジェクト

「外来卓話」……

前 福岡県糸島市立
伊都国歴史博物館長
榊原英夫様



『海を渡った倭国王』

福岡県糸島市の伊都国歴史博物館には、同市上町向原遺跡出土の素環頭大刀が収蔵されています。これは伊都国の宝として300年に亘って伝世され、5世紀頃の墳墓に副葬されたものですが、120cmに及ぶ弥生時代におけるわが国最大最長の大刀で、正しく『魏志倭人伝』が記す「五尺刀」であるかに見えます。

しかし、当該大刀の製作年代は理化学的分析(鉄分析及び14C年代測定)から1世紀(AD)～2世紀初頭とされ、倭国(倭国の後半は邪馬台国連合である)の女王卑弥呼が魏に遣使した景初3(239)年及び魏の建中校尉梯儁が来倭した正始元(240)年とは100年を超える時間差があり、倭国女王卑弥呼が魏帝曹芳から下賜された「五尺刀」(二口のうち一口)とする蓋然性は低いのです。

却って、後漢の永初元(107)年に倭国王帥升が後漢の安帝から下賜されたものである可能性が浮上します。当時、糸島地域に強大な王権が存在したことは、三雲南小路王墓・井原鎌溝王墓・平原王墓などの遺跡群から確実です。

倭国王帥升は西暦100年前後の伊都国王であったと考えられ(倭国は88～107年の間に成立したと推定される)、倭国初代の国王であった可能性が高いと思われます。倭国王帥升は安帝即位の祝賀表敬に合わせ、倭の奴国に代わって倭国が創始されたことを東アジア世界に高らかに宣言したのです。

この永初元(107)年の後漢への貢献では、さらに一つの特筆すべきことがあります。倭国王帥升が自ら派遣団を率いて渡海したと考えられることです。『後漢書倭伝』には「安帝の永初元(107)年、倭國王／帥升／等、生口百六十人を獻じ、請見を願う」とあります。この「倭國王／帥升／等」の用法を、史書として先行する『魏志倭人伝』の用法と比較することで遣使の実態に迫ることができそうです。



- 倭の女王、夫夫／難升米／等を遣わし郡に詣り…
- 太守弓遵、建中校尉／梯儁／等を遣わし、…
- 倭王、復た使大夫／伊聲耆・掖邪狗／等八人を遣わし、…
- 倭の戴斯(大使)／烏越／等を遣わして郡に詣り…
- 塞曹掾史／張政／等を遣わし、…
- 倭の大夫率善中郎将／掖邪狗／等二十人を遣わし、…

これらの「等」は遣使が使節団を形成していることを示していますし、「等」の前に記される官職名と個人名は、派遣された使節団の代表者(団長)ということになります。

また、『魏志倭人伝』に見える派遣者と使者の関係を示す動詞「遣わす」が『後漢書倭伝』の当該文節には見えません。『後漢書東夷伝』においても、使者を遣わす場合には「扶餘王、使を遣わし奉貢す」や「高句麗、使を遣わし朝貢す」など、国の最高為政者である国王本人が直接訪問する場合と峻別しています。倭国王帥升は使者を派遣したのではなく、安帝即位奉祝団には倭国王帥升が一行を率いて自ら参加していたこととなります。

これは驚くべき事実です。わが国の近世までの歴史で、国の代表者が海を渡って外国を友好訪問するという事例は、本例を除けば他にありません(346年に神功皇后が、新羅討伐を行い、364年に太子誉田別皇子が新羅に侵攻したとされるが、いずれも皇后又は皇太子であり、しかも平和的な外交ではない。又、『宋書倭国伝』の「祖禰躬ら甲冑を撰き、(略)渡りて海北を平ぐること九十五国」は、この誉田別皇子等の朝鮮半島遠征(高句麗広開土王碑文関連)を指すと考えられるが、いずれにしても軍事行動であり、平和外交とは程遠い)。

後漢の安帝は、160人という膨大な生口を献じ、自ら代表団を率いて貢献した倭国王帥升に最大の敬意を払い、特別な恩寵を以って長大な素環頭大刀を下賜したものと思われま

す。倭国王帥升は伊都国王であり、玄界灘沿岸の国々を束ねる伊都連邦(対馬・一支・末蘆・伊都・奴・不彌及び斯馬・巴百支・伊邪の9か国で構成される)の盟主でもあります。正しく「海洋漁労国家群」の領袖としての面目躍如といったところでしょうか。



「魏志倭人伝」に登場する国。かつてこの地に実在した伊都国。

そして糸島市上町向原遺跡より出土した120センチに及ぶわが国最大最長の太刀「素環頭太刀」。榊原先生より配布された資料をもとに、「素環頭太刀」とさきたま古墳群より出土した「稻荷山鉄剣」の対比や、大量に発掘された銅鏡とその大きさ、そして「魏志倭人伝」と「後漢書倭伝」との比較や時代考証など、多岐に及ぶ内容を分かりやすく、日本(倭国)の歴史についてご説明いただきました。

著書：『景行天皇と巡る西海道歴史紀行』
—わが国の起源を求めて九州を歩こう—
(海鳥社刊)2006.12

『邪馬台国への径』
—『魏志東夷伝』から「邪馬台国」を読み解こう—
(海鳥社刊)2015.2

ニコニコボックス

- 益子君 前、糸島市立伊都国歴史博物館館長、榊原英夫様、本日の卓話楽しみにしていました。宜しくお願いします。
- 浜野君 伊都国歴史博物館前館長 榊原英夫様、遠方よりようこそお越し下さいました。卓話楽しみにしておりました。本日は宜しくお願い致します。若松P会長、会長の時間宜しくお願い致します。
- 江原君 伊都国歴史博物館前館長の榊原英夫様、本日は当クラブの例会での卓話の時間に遠路お越し下さいまして、本当に有難うございます。お話しを楽しみにしておりました。宜しくお願い致します。
- 小島君 伊都国歴史博物館前館長 榊原英夫様、ようこそお出で頂きました。お話し楽しみにしておりました。勉強させていただきます。
- 松浦君 伊都国歴史博物館前館長 榊原英夫様、ようこそいらっしゃいました。本日は宜しくお願い致します。
- 守屋君 榊原先生、遠路はるばるお出で下さいました事に有難う存じました。楽しみにしておりました。
- 佐藤君 本日の外来卓話、柴田P会長御紹介の伊都国歴史博物館前館長 榊原英夫様、遠路はるばる彩の国、狭山市へようこそお越し下さいました。楽しみにしておりました。本日は宜しくお願い致します。
- 柴田君 榊原英夫様、遠路はるばるお越し頂き有難うございます。卓話宜しくお願いします。
- 清水君 本日の外来卓話の榊原先生、福岡からお出で頂き誠に有難うございます。お話し楽しみにしています。宜しくお願い致します。
- 若松君 榊原先生、今日は楽しみにしていました。卓話宜しくお願いします。

◆次の例会

12月12日(火) 12:30~13:30
第二副SAA : 沼崎会員 小幡会員
外来卓話 : (医)尚寿会理事長
大生病院院長
寶積 英彦 様